



2024.1.14

ニリンソウ自生地 保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanirinso@gmail.com

都立赤塚公園
サービスセンター
03-3938-5715

編集責任者：木村松夫



Since 1982 ニリンソウ保護活動 42 年目
先達の願いを引き継いで都内最後の自然を守る！

赤塚公園ニリンソウを守る会 活動予定

・2/11 ニリンソウシーズン前、仕上げの手入れ

歓迎：高島高校生徒会さんのボランティア

10:00 大門観察台集合、11:30 頃解散

・3/10 ニリンソウシーズン前の植物観察会

10:00 大門観察台集合、11:30 頃解散

★誰でも参加できます。活動現場ではリーダーの指示に従って
いただきますが、自由参加です。

※問合せ：左記赤塚公園サービスセンターへ

元旦に発生した能登半島の地震、翌日の羽田空港飛行機衝突事故、悲しいことが続いている 2024 年の始めです。被災されたみなさま、犠牲になられたみなさまに心からお見舞い申し上げます。

1/14 ニリンソウが葉を広げる2月までに やらなければならない草刈り作業

さて、東京は晴れた昼間はぽかぽか陽気ですが、夜になると雪交じりの寒さだったり、寒暖の差が激しい毎日ですが、平均的には「あたたかい冬」のようです。1/11 に赤塚公園サービスセンターが実施した植物調査では、陽の当たる場所で「春一番の花」ヒメオドリコソウとオオイヌノフグリが開花していました。

「ニリンソウは？」と言えば、大門の林はまだ落ち葉がたまっているだけで、緑の草の展開は見られません。でも、毎年冬の間に開花する「特異株」は今年も元気に咲いてきました（右）。林の中をよく見ると展葉をはじめている株もあります。手入れ作業は、ニリンソウが葉をうまく広げられるように、枯草や大型・常緑の植物を刈り取るのですが、2月の中旬には林は



ニリンソウの葉が一面に開いてくるので、もう、林にたくさんの人が立ち入ることはできません。

1/14 はニリンソウ・シーズン前最後の
大々的な草刈りになりました。



高島高校生徒会のみなさんがボランティア参加 にぎやかに始まりました



赤塚公園のすぐ北側にある都立高島高校は、これまで中央地区の落ち葉かきなどに全校で取り組んでくれたり、赤塚公園には何かと協力をしてきていました。今年からは、さらに、生徒会のみなさんが継続的に保護活動に参加してくれることになりました。この日は生徒さん11人に先生、行政関係者も加わって、いつもの倍近くの参加人数でした。加えて、1975年から

50年近く活動が続けている〈都会の自然保護活動〉のパイオニア団体「しのばず自然観察会」のリーダー・小川潔先生も見学にいらっしゃって、にぎやかな活動スタートとなりました。

ロープ柵内の本格的手入れに初めて着手!



らいました（左上）。みなさん、慣れない作業を頑張ってくれました。ここでの作業が恒常化すると草原は見違えてくるはずです。

せっかく「ニリンソウの林」の手入れに来たのだから、ニリンソウの今の姿（地面の下で根茎という形で生きている）も見学してもらいました（右）。

ありがとうございました。これからも頼みますよ～。

擬木柵の奥の林の草刈りは「守る会」のメンバーが行いましたが、高島高校のみなさんにはこれまでなかなか手を付けられなかったロープ柵内の手入れを行ってもらいました。ここは4年前から東京都が生物多様性保全エリアとしてきたのですが、本格的な保護活動はまだ手掛けられていませんでした。背丈が高く伸びてほかの野草が生えるのを邪魔してしまうハルジオンを今のうちに抜き取っておくという、とても大事な作業に取り組んでも

